

(別紙)

平成 31 年 1 月 日

四国運輸局長 殿

高知県東部広域地域公共交通協議会

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

標記について、別添のとおり実施しましたので報告します。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

平成31年1月 日

協議会名:高知県東部広域地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定等に向けた方針
<p>【事業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 沿線地域の概況及び公共交通の現状整理 移動実態や公共交通に対するニーズ等の把握 上位・関連計画やまちづくりの方向性の整理及び地域公共交通の役割と課題のとりまとめ 地域公共交通網形成計画(案)の検討及びとりまとめ 協議会開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的データの整理、現況調査などにより、地域の公共交通の状況を整理した。 地域住民等を対象としたアンケート調査を実施し、地域の公共交通に対するニーズ等を整理した。 上位・関連計画やまちづくりの方向性を整理し、地域公共交通の役割と課題をとりまとめた。 12月27日の第3回総会において高知県東部広域地域公共交通網形成計画(素案)を作成し、1月29日の第4回総会において高知県東部広域地域公共交通網形成計画(案)を作成した。 上記計画(案)にて、2月上旬からパブリックコメントを実施し、3月中に地域公共交通網形成計画を策定する予定。 	<p>A 計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>地域の公共交通を将来にわたって持続可能なものとするため、以下の計画目標を掲げ、必要な施策を行っていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 市町村内・地域内・地域外のそれぞれの移動ニーズにあわせた公共交通ネットワークの再構築 異なる交通モード間のスムーズな乗換環境の整備 地域の観光資源を生かすための公共交通利用環境の改善 持続可能な公共交通運行に向けた交通資源の見直し 新たな公共交通利用者確保に向けた利用促進策の実施 <p>なお、平成31～32年度にかけて、地域公共交通調査等事業(地域公共交通調査事業(計画推進事業))及び幹線鉄道等活性化事業費補助(コミュニティ・レール化)の活用を見込んでいる。</p>

高知県東部広域地域公共交通協議会

地域公共交通調査事業(計画策定事業)
事業評価(平成30年度)

高知県東部広域地域の基礎データ

地域人口 : 126,293人(平成30年1月1日)
老年人口割合 : 35.1%(平成27年度国勢調査)
地域面積 : 約1,381km²
域内市町村 : 室戸市、安芸市、南国市、香南市、
東洋町、奈半利町、田野町、安田町、
北川村、馬路村、芸西村

高知県東部広域地域における主な公共交通概要

- 当該地域の広域的かつ幹線的な公共交通機関としては、南国市と奈半利町を結ぶ第3セクター鉄道土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線が運行、さらに、鉄道に平行・接続する形で高知東部交通の幹線バス(4路線)が運行されており、加えて、それら幹線的な公共交通に接続する支線的な公共交通として、沿線市町村によるコミュニティバス等が運行されている。
- 鉄道、路線バスともに沿線人口の減少や自動車専用道路の延伸等によって、年々利用者の減少が続いており、行政負担も増加傾向にあることから、地域の公共交通を将来にわたって持続可能なものにするための、適正な公共交通ネットワークのあり方の検討が急がれている。

協議会の構成員

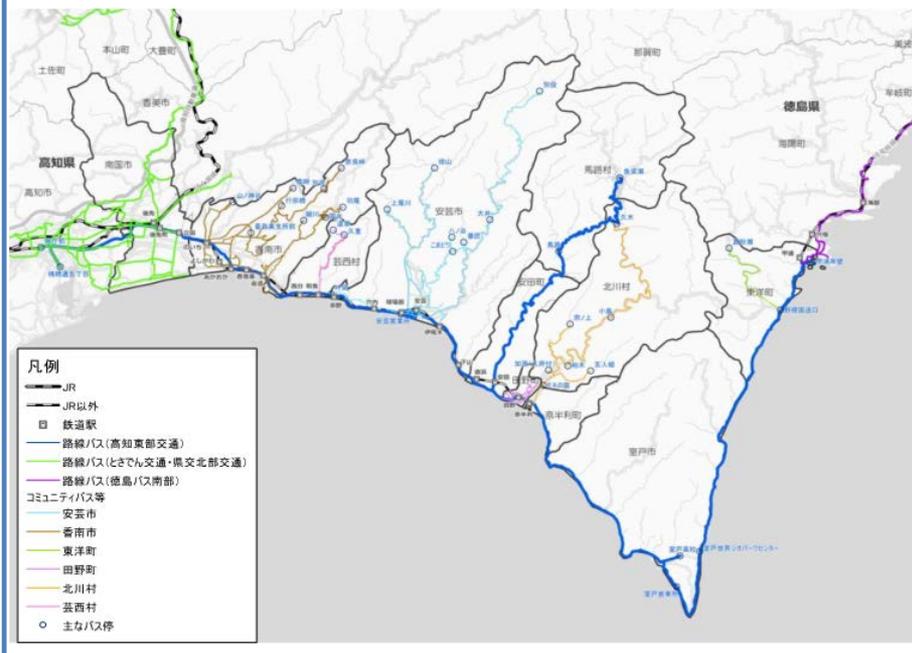
土佐くろしお鉄道株式会社、四国旅客鉄道株式会社、高知東部交通株式会社、とさでん交通株式会社、警察、道路管理者、学識経験者、地域住民・利用者代表等、ごめん・なはり線活性化協議会、国土交通省四国運輸局、関係11市町村、高知県

高知県東部広域地域の公共交通ネットワーク図

東部広域地域においては、幹線的な公共交通機関として、第3セクターの土佐くろしお鉄道が運行する南国市と奈半利町を結ぶ鉄道(土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線)や、鉄道に平行・接続する形で運行されている高知東部交通の幹線バス(3路線)がある。

また、支線的な公共交通・移動手段としては、沿線市町村によるコミュニティバス等が運行されている。

なお、南国市については、上記の他に、鉄道(JR土讃線)、路面電車(とさでん交通後免線)、路線バス(とさでん交通)、空港乗合タクシーが運行されており、東洋町については、徳島県方面へ、鉄道(阿佐海岸鉄道阿佐東線)、路線バス(徳島バス南部)が運行されている。



具体的な課題・問題点、事業の目的・必要性

<具体的な課題・問題点>

- 土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線—
- 開業翌年度以降、毎年経常赤字が続いており、平成16年度以降は、県・関係11市町村が造成した鉄道経営助成基金による欠損補助等の財政支援(年間1億円超)を継続実施
- 今後の沿線人口の減少や自動車専用道路の延伸等を踏まえると、経営環境は更に厳しさを増すことが想定され、現在の基金残高(約10億円)も5年後には半減する見込みであり、将来的には基金の再造成も避けられない状況
- 幹線路線バス—
- いずれの路線も国庫補助路線又は県補助路線であり、行政の支援なくしては、運行の継続が困難な状況にあり、国・県・市町村あわせての補助金額は、年間で約1.4億円にのぼっている
- 高知東部交通全体の路線バス利用者は直近5年間で約3割(約5万人)が減少しており、特に甲浦線(安芸～甲浦)については、平成28年度の日あたりの輸送量が15.3人となっており、近い将来、国庫補助要件である15人を切り、運行に関する国の補助が得られなくなることが懸念される

<事業の目的・必要性>

- 利用者数などの減少傾向が本格的に加速化し、地域の公共交通の維持が困難となり、住民の日常生活への影響や地域の活力低下、自治体の負担増を招く前に、将来にわたって公共交通を維持・持続するための、適正な公共交通ネットワークの在り方の検討や利用促進等の戦略づくりが必要

調査事業の概要

- 協議会開催
- 沿線地域の概況及び公共交通の現状整理
- 移動実態や公共交通に対するニーズ等の把握
- 上位・関連計画やまちづくりの方向性の整理及び地域公共交通の役割と課題のとりまとめ
- 地域公共交通網形成計画(案)の検討及びとりまとめ

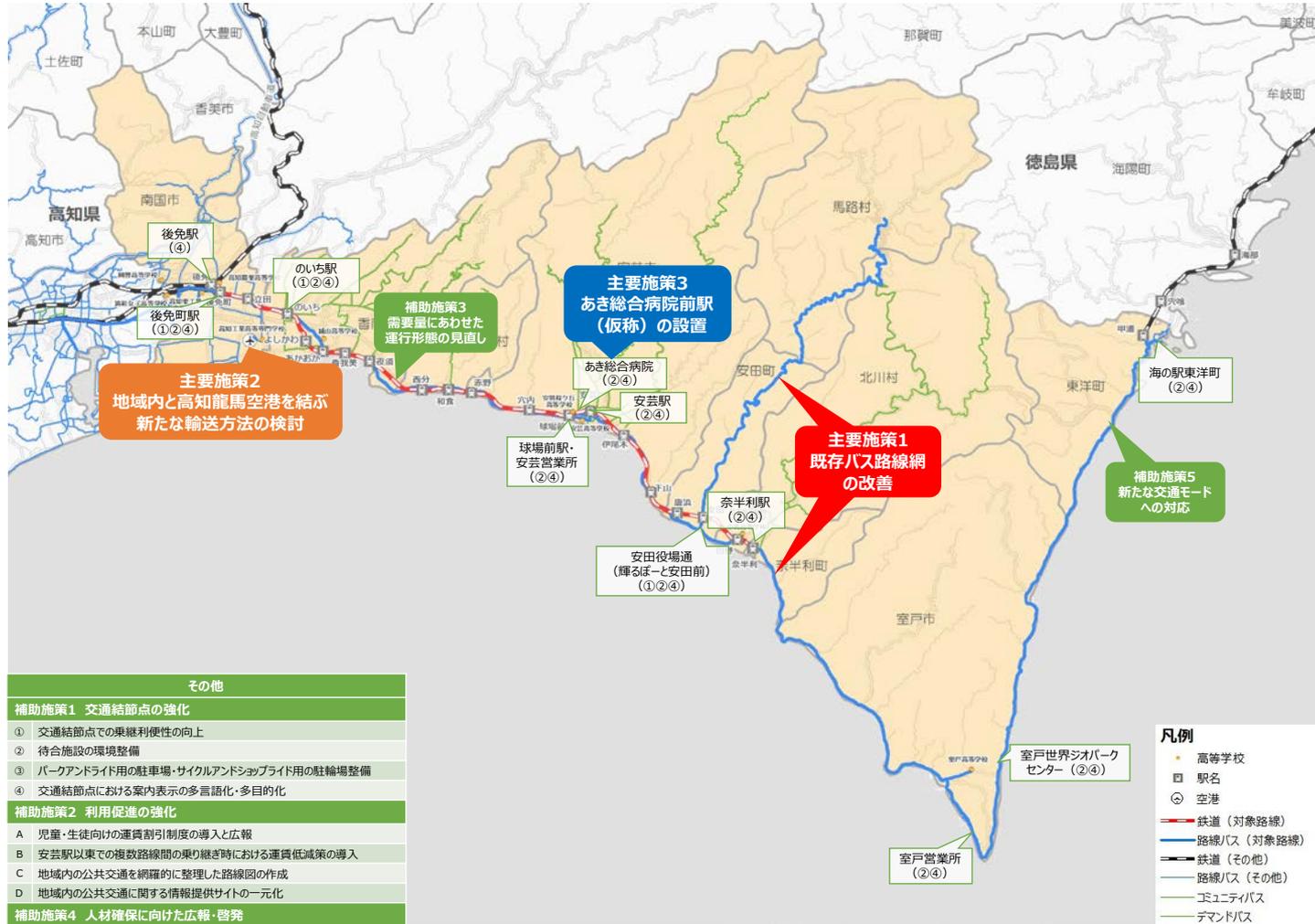
協議会における検討状況

【法定協議会開催状況(全5回開催予定)】

開催日	主な内容
《第1回》 平成30年6月8日	・高知県東部広域地域公共交通協議会について ・計画策定支援業務の委託先決定について ・高知県東部広域地域公共交通網形成計画について
《第2回》 平成30年10月18日	・各種調査の報告 ・あき総合病院前駅(仮称)の設置検討について
《第3回》 平成30年12月27日	・高知県東部広域地域公共交通網形成計画(素案)について
《第4回》 平成31年1月29日	・高知県東部広域地域公共交通網形成計画(案)について ・パブリックコメントの実施について
《第4回》 平成31年3月 (予定)	・高知県東部広域地域公共交通網形成計画の策定について

事業の状況

地域の公共交通に関する調査の結果明らかとなった、高知県東部広域地域の公共交通が抱える課題を解決するため、5つの計画目標を定め、必要な施策を計画に盛り込むこととしている。



これらの施策を実施していくことで、持続可能な地域の公共交通の実現を図る。

自己評価

事業実施の適切性

地域公共交通網形成計画の作成及び実施に関し必要な協議を行うための協議会として「高知県東部広域地域公共交通協議会」を設置して、計画策定の方向性、各種調査結果の検討、網形成計画に位置付ける実施事業について協議するとともに、必要に応じて、各交通事業者及び市町との合同協議・個別協議を行い、計画策定スケジュールに従って適切に事業を実施している。

調査結果を受けた計画策定の方針、今後への反映

調査結果をもとに、5つの地域公共交通が抱える課題を整理した。これらの課題を解決するため、5つの計画目標と、それを達成するための実施項目を設定するとともに、計画の達成状況を評価するための目標値を設定することとしている。

東部広域地域の公共交通が抱える課題

課題1：利用者が少ない路線や便の存在

課題2：生徒や高齢者のニーズへの対応

- (1) 生徒のニーズとの隔たり
- (2) 高齢者の公共交通に対するニーズの高まり

課題3：観光客のニーズとの隔たり

- (1) 高知龍馬空港から地域内へのアクセス環境の不足
- (2) 利用者のニーズに対応できていない情報提供手法

課題4：まちづくりとの連携

- (1) 県立あき総合病院へのアクセス
- (2) 拠点施設と交通結節点の一体的整備
- (3) 高速道路等の開通による利用者減少の危惧

課題5：利用者ニーズに応えるための交通資源の確保

- (1) 事業者の人材不足
- (2) 車両規模や運行頻度と需要の不一致

評価指標	計画達成めど状況	評価指標	現状	目標値(136.1線区)	備考(目標値6000円)
市町村別・地域別・地域外のそれぞれの移動ニーズに合わせた公共交通ネットワークの構築	高知バス路線(安芸～宮門～甲浦線、安芸～馬路～徳島線)を中心に6線(中野)開設が計画され、民間事業者種別・区別の別により、通勤・通学での定額利用者を、買い物・通院・観光などの不定期利用者が増加する。	15 歳以上通勤・通学者の鉄道・乗合バス利用率	5.8% (平成22年度:30.6%)	7.9%以上	認知向上(県平)の実績値;経済的みの分析等が10%以内
異なる交通モード間のスムーズな乗り換え環境の整備	—	路線(1日あたり乗客数)	安芸～宮門～甲浦線: 470人/日 安芸～馬路～徳島線: 27人/日 (平成30年度:平日)	安芸～宮門～甲浦線: 226人/日以上 安芸～馬路～徳島線: 42人/日以上	路線バス(10)調査(15歳以上通勤・通学者の乗合バス利用率の目標値(平成22年度:1.1%(地域全体)→1.7%(県平)削減率)と(1)別)
地域の観光資源を生かすための公共交通利用環境の改善	高知龍馬空港から地域内への新たな公共交通でのアクセス手段を導入することで、乗客数が拡大し公共交通が形成され、乗客数が増加する。	新設区間の地域内における公共交通利用率	8.9% (平成27年度)	11.5%以上	県外観光客入込・観光誘致(平成20年度実績値)
住民の身近な公共交通運行に向けた交通資源の確保	本県総合政策(都市)の施策により、本県総合病院への通勤者・通学者の増加が期待され、600-427線区に1日あたり乗客数が増加する。	600-427線区の平日1日あたり乗客数	2,071人/日 (平成30年度)	2,203人/日以上	鉄道(10)調査(新設区間による旅客増計画(1300)20%削減目標に20%達成される利用増を計上)
新たな公共交通利用環境の確保	道の駅建設におきまして公共交通を促進することで、通勤・通学での公共交通利用率に対する認識が向上し、新たな交通モードの導入による公共交通の形成が期待される。	600-427線区の新設区間乗客率	99.2% (平成29年度)	93.6%以下	事業費削減(平成29年度調査の600-427線区乗客率2位の便の実績値)
新たな公共交通利用環境の確保	地域の公共交通を担う人材を確保することで、線区において乗りやすい1人乗る公共交通を維持する。	交通事業者の削減率	—	2名(土佐(5)区線区) 4名(高知東部交通)	(現在の社員定員18名が5年間で定年となる想定)

今後のスケジュール

2月上旬～3月上旬：パブリックコメントを実施

3月中旬～下旬：パブリックコメントを踏まえた公共交通網形成計画案のとりまとめ

公共交通網形成計画の策定